



No. sma0060

(2023.1.19)

サントリー美術館
「吹きガラス ^{たえ} 妙なるかたち、^{みょう} 技の妙」開催

会期：2023年4月22日（土）～6月25日（日）



藍色ちろり 日本 18世紀 サントリー美術館

【全期間展示】

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2023年4月22日（土）から6月25日（日）まで「吹きガラス 妙なるかたち、技の妙」を開催いたします。

吹きガラスは、ドロドロに溶けた熱いガラスに息を吹き込み、風船のように膨らませて器を作る技法です。直接手で触れることなく、ガラスの温度や状態を見定めながらスピーディに器を形づくる吹きガラスは、ガラスという素材の性質を活かした、まさにガラスならではの技法といえます。

紀元前1世紀に遡る吹きガラスの登場によって、ガラス容器の生産・流通が大きく変化しただけでなく、ガラスならではの〈かたち〉が開花しました。本展覧会では、そのような吹きガラスならではの表現を生み出した作り手の〈技〉に注目しながら、古今東西の特色ある吹きガラス作品をご覧ください。あわせて、現代のガラス作家や研究者とコラボレーションした研究成果をご紹介します。かつての名もなき吹きガラス職人たちの創意工夫に迫ります。

作り手目線で作品を味わいながら、吹きガラスの魅力を再発見していただけますと幸いです。

《 展示構成 》※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります。

第Ⅰ章：自然な曲線美 ―古代ローマの吹きガラス



三連瓶
東地中海沿岸域 2～3世紀
岡山市立オリエント美術館 【全期間展示】



吊手付二連瓶
東地中海沿岸域 4～5世紀
遠山記念館 【全期間展示】

吹きガラスは紀元前1世紀中頃、ローマ帝国下の東地中海沿岸域に始まると考えられています。初期の吹きガラスには、石や金属の器を思わせる色づかいやシャープな形をみることができますが、次第に、型を使わずに成形されたやわらかく、のびやかな造形がみられるようになります。重力や遠心力を活かした自然な曲線美をもつ形と、それを彩る飴細工のような大らかでのびのびとした装飾は、ローマ時代の吹きガラスの魅力です。

本章では、ローマ時代に作られたさまざまな吹きガラス作品をご紹介します。この時代にはまだ道具が限られていたこともあり、よく見ると制作にかかわる痕跡を作品の至る所に見出すことができます。こうした痕跡を通じて、2000年近く昔の吹きガラス職人の手の動きを想像しながらご覧ください。

また、「二連瓶」や「四連瓶」と呼ばれる独特な形態をもつ作品群に注目し、最新の研究成果をもとに、その技の秘密に迫ります。

【主な出品作品】

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------------------|
| ・斑点文台付杯 | シリア | 1 世紀 | 岡山市立オリエント美術館 |
| ・組色瓶 | 東地中海沿岸域 | 1 世紀 | 個人蔵 |
| ・吊手付二連瓶 | 東地中海沿岸域 | 4 ～ 5 世紀 | サントリー美術館（辻清明コレクション） |
| ・吊手付二連瓶 | 東地中海沿岸域 | 4 ～ 5 世紀 | 高畑美術工芸館 |
| ・四連瓶 | シリア | 4 ～ 5 世紀 | 岡山市立オリエント美術館 |

第Ⅱ章：ホットワークの魔法 ——ヨーロッパの吹きガラス



船形水差
イタリア 16～17世紀
サントリー美術館
【全期間展示】



レース・ガラス脚付鉢
イタリア 16～17世紀
サントリー美術館
【全期間展示】

熔解炉で溶かした熱いガラスを成形・加工することをホットワークといいます。ホットワークによる表現は、15～17世紀頃のイタリア、ヴェネチアにおいてひとつの頂点に達したといっても過言ではないでしょう。

この時期のヴェネチアの吹きガラスは、美しく澄んだ素材、洗練された優美な形、そしてホットワークによる複雑かつ繊細で立体的な装飾をもち、高級品としてヨーロッパのガラス市場を独占しました。16世紀に発展したレース・ガラスは、ホットワークを極めたヴェネチアの職人の発想力と創造力の賜物です。その影響は大きく、同時期のヨーロッパ各地でヴェネチア様式の作品が作られただけでなく、現代のガラス作家にもその技が引き継がれています。

本章では、16～19世紀にかけてヴェネチアおよび周辺地域で作られた吹きガラスの名品とともに、ヴェネチアの技を独自の表現に昇華した現代ガラス作家4名の作品をご紹介します。作家とコラボレーションした「作家目線の見どころ解説」とあわせ、まるで魔法のようなホットワークの妙技をお楽しみください。

【主な出品作品】

- ・ダイヤモンドポイント彫り唐草文蓋付ゴブレット
イタリアもしくはスペイン 16世紀 サントリー美術館
- ・レース・ガラス大皿 イタリア 17世紀 箱根ガラスの森美術館
- ・『ガラス製造術』イタリア語版 アントニオ・ネリ著
イタリア 1612年刊 町田市立博物館（大平洋一氏寄贈）
- ・Goblet (mezza stampatura) シリーズ 関野亮 2022年 作家蔵
- ・gaze 藍/netz 藍 有永浩太 2022年 作家蔵

第III章：制約がもたらす情趣 ——東アジアの吹きガラス



蓋付壺・水滴

伝滋賀県比叡山根本如法堂付近出土品のうち
宋もしくは日本 12世紀 奈良国立博物館
画像提供：奈良国立博物館

【全期間展示】



紫色ちろり

日本 18～19世紀
桑名市博物館（田中一郎氏寄贈）
【全期間展示】

東アジアにおける吹きガラスの生産は、5世紀頃に西方からの影響のもとで始まったとみられています。しかし、西方のものに比べると、東アジアの吹きガラスは概して小さく薄手で、ホットワークによる装飾も少なく、素朴なつくりをしています。実は、近代より前に東アジアで行われた吹きガラスの工程は、西方のそれとは異なるものでした。とくに、口の成形に必要なポンテと呼ばれる道具を使用しないこと、厚く大きな器を作るために欠かせない徐冷^{じょれい}を行う本格的な設備がなかったことは、吹きガラスの表現に制約をもたらしました。

しかし、この制約のもとで作られたからこそ、東アジアならではの吹きガラスの造形が生まれました。そこには、素朴な愛らしさや儂げな美しさといった、西方とは異なる情趣があります。

本章では、およそ12～19世紀までの東アジアで作られた吹きガラスを、日本に伝わる作品を通してご紹介します。また、本展にあわせて実施した当館所蔵《藍色ちろり》の技法研究の成果をもとに、江戸時代の吹きガラス職人の技に迫ります。

【主な出品作品】

- ・重要文化財 るつぽ 埴塙片 博多遺跡群出土（博多第22次調査）
11～13世紀 福岡市埋蔵文化財センター
- ・重要文化財 容器片 博多遺跡群出土（博多第115次調査）
11～13世紀 福岡市埋蔵文化財センター
- ・藍色ちろり 日本 18世紀 サントリー美術館
- ・緑色唐草文四方向付 日本 18世紀 サントリー美術館
- ・『ながきでんびいどろつくり長崎傳硝子製』 日本 1817年
神戸市立博物館（びいどろ史料庫コレクション）

第Ⅳ章：今に連なる手仕事 ―近代日本の吹きガラス



籠目文赤緑碗形氷コップ
日本 20世紀 個人蔵
【全期間展示】



sghr recycle シリーズ
菅原工芸硝子株式会社
【全期間展示】

明治時代に入ると、日本でも近代的なガラス産業の道が拓かれます。ヨーロッパから招いた技術者の指導のもと、大規模な熔解炉を用いた複数名の流れ作業による製作スタイルが導入され、西洋式の道具や製法も伝授されました。その導入初期に重要な役割を果たしたのが品川硝子製造所です。ここで学んだ伝習生たちは、後に各地にガラス工場を開き、今日に至るガラス産業の発展に貢献しました。

明治時代末頃から昭和時代初期にかけて作られた氷コップ（かき氷入れ）にみられる多様な装飾技法は、西洋から伝えられた技術が国内において習熟したことを物語っています。それだけでなく、あぶり出し技法による日本の伝統文様の表現などは、西洋技術を日本風にアレンジした試みといえるでしょう。バリエーション豊かな氷コップは、機械化以前の、手吹きによるガラス生産の最盛期の様子を伝えてくれます。

本章では、氷コップを中心に、明治時代以降の日本で作られた吹きガラスをご紹介します。また、現在も手吹きによる生産を続けている企業3社の製品とともに、産業としての吹きガラスの未来を感じさせる各社の取り組みをご紹介します。

【主な出品作品】

- ・斑色筆筒 品川工作分局硝子製造所 日本 1881年頃 東京国立博物館
- ・グラヴェール松鶴文火舎・金赤油壺台ランプ
日本 19～20世紀 神戸市立博物館（びいどろ史料庫コレクション）
- ・吹雪文花縁碗形氷コップ 浅原硝子製造所 日本 20世紀 個人蔵
- ・ステムグラスシリーズ 田島硝子株式会社
- ・うすはりタンブラーLの製作工程 松徳硝子株式会社

第V章：広がる可能性 ―現代アートとしての吹きガラス



しろの くの かたち 2022 小林千紗 2022年 作家蔵
【全期間展示】

産業としての吹きガラスの流れと並行して、20世紀以降には芸術表現の手法としての吹きガラスの存在も見逃せません。器などの実用品の生産に用いられてきた伝統的な技法や方法に捉われることなく、熱く熔けたガラスを「吹いて膨らませる」という吹きガラスの基本を活かした新しい造形表現への挑戦が、現在進行形で進んでいます。

本章では、新進気鋭の若手作家4名の作品をご紹介します。「これも吹きガラス？」と思うような作品を通じ、吹きガラスのさらなる可能性をご覧ください。

【主な出品作品】

- ・Amorphous 22-5 横山翔平 2022年 作家蔵
- ・Transition '22-11 竹岡健輔 2022年 作家蔵
- ・Vestige 藤掛幸智 2023年 作家蔵

【本展における展覧会関連プログラム】

◎講演会「吹きガラスの魅力ー西と東ー」（仮）

講師：井上暁子 氏（ガラス工芸史家）

日時：2023年4月30日（日）14時～15時30分

料金：700円（別途要入館料）

※当館ウェブサイトよりお申込みください。応募者多数の場合は抽選。

◎ファミリータイム

中学生以下のお子さまをお連れの方は入館料割引になる、キッズフレンドリーな時間帯です。鑑賞支援ツールやレクチャーを利用して、子どもから大人まで、気軽に鑑賞をお楽しみください。

日時：2023年5月5日（金・祝）10時～13時

※お子さまと一緒に鑑賞を支援する時間帯となりますが、どなたでもご入館いただけます。

すべてのプログラムは変更・中止の場合があります。詳細および最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

「吹きガラス 妙なるかたち、技の妙」展

▼会 期：2023年4月22日（土）～6月25日（日）

※作品保護のため、会期中展示替を行います。

※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼主 催：サントリー美術館、読売新聞社

▼協 賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス

▼会 場：サントリー美術館

東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階

交通機関（東京ミッドタウン「六本木」まで）

都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結

東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結

東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

【基本情報】

▼開館時間：10時～18時

※金・土および5月2日（火）～4（木・祝）は20時まで開館

※いずれも入館は閉館の30分前まで

※開館時間は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

▼休 館 日：火曜日（5月2日は20時まで、6月20日は18時まで開館）

▼入 館 料：

・当 日 券：一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料

・前 売：一般1,300円、大学・高校生800円

※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱

※前売券の販売は2月8日（水）から4月21日（金）まで

※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ

▼割 引：

・あとり割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引

※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：4月27日（木）、

5月4日（木・祝）・18日（木）、

6月1日（木）・15日（木）・22日（木）

12時、13時、14時、15時にお点前を実施

（お点前の時間以外は入室不可）

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：各回12名／1日48名

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、先着順で販売終了、お一人様
2枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：<https://www.suntory.co.jp/sma/>

▽プレスからのお問い合わせ：

サントリー美術館〔学芸〕林〔広報〕吉岡

https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/

▽広報画像のお申込み：

「吹きガラス 妙なるかたち、技の妙」展広報事務局（株式会社TMオフィス内）

〔担当〕馬場・永井・西坂

T E L ：06-6231-4426

E - m a i l : glass@tm-office.co.jp

以 上